



飯塚市教育委員会事業評価結果報告書

(平成27年度分)

～飯塚市の未来を担う～

「かしこく」「やさしく」「たくましい」子どもたちの育成

平成28年11月

飯塚市教育委員会

目 次

I	はじめに	・・・・・・・・・・ P 1
II	飯塚市教育委員会について	・・・・・・・・・・ P 1
III	教育委員の活動状況	・・・・・・・・・・ P 2
	(1) 教育委員会会議	
	(2) 研修会等への参加状況	
IV	平成27年度事務事業評価	・・・・・・・・・・ P 5
	1 点検・評価について	
	(1) 点検・評価する事務の対象	
	(2) 点検・評価の方法	
	(3) 結果の取扱い	
	2 全体評価結果	
	(1) 全体集計結果	・・・・・・・・・・ P 5
	(2) 外部評価講評	・・・・・・・・・・ P 6
	3 取組み施策別評価結果	
	(1) 学校教育	・・・・・・・・・・ P 8
	(2) 社会教育	・・・・・・・・・・ P 11
	(3) 事務事業に係る点検・評価シート一覧表	・・・・・・・・・・ P 14
	(4) 点検・評価シート（各課提出）	・・・・・・・・・・ P 15
●	参考資料	
	平成27年度教育委員会会議議決及び報告事項一覧	・・・・・・・・・・ P 28

＜本報告書作成にあたり外部評価いただいた方々＞

福岡教育大学教授	井上 豊久
福岡教育大学講師	森山 一昌

I はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条の規定に基づき、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することとされています。

本報告書は、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たすために、平成 27 年度の飯塚市教育委員会に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行った結果を、教育に関し学識経験を有する者の意見を付して、報告するものです。

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

II 飯塚市教育委員会について

【組織、構成】

都道府県及び市町村等に置かれる行政機関のひとつで、非常勤の教育委員をもって組織される合議制の執行機関であり、学校教育、生涯学習、文化等に関する事務を担当しています（飯塚市教育委員会は 5 人の教育委員で構成されています）。

【教育委員の任命】

市長の被選挙権を有するもので、人格が高潔で、教育、学術及び文化に関し識見を有するものの中から、市長が議会の同意を得て任命し、その任期は 4 年（再任可）となっています。

【運営等】

教育委員会は、大局的な見地から教育行政の基本的方針を決定し、その方針決定を受け、教育長が事務局を指揮監督して具体的な事務を執行する仕組みとなっています。

【飯塚市の教育委員】

職名	氏名	現在の任期
委員長	上田 敬子	平成 28 年 5 月 17 日～32 年 5 月 16 日
委員(委員長職務代行者)	大隈 恵子	平成 26 年 5 月 17 日～30 年 5 月 16 日
委員	高石 双樹	平成 27 年 5 月 17 日～31 年 5 月 16 日
委員	安永 卓生	平成 25 年 9 月 30 日～29 年 5 月 16 日
委員(教育長)	片峯 誠	平成 26 年 5 月 17 日～30 年 5 月 16 日

Ⅲ 教育委員の活動状況

1 教育委員会会議

教育委員会会議は、毎月1回の「定例会」と委員長が必要と認めたとき等に開催する「臨時会」からなっており、付議案件及び懸案事項などの審議を行い、教育行政の方針等を決定しています。

【平成27年度開催状況等】

- ① 開催回数：13回（うち定例会12回、臨時会1回）
- ② 付議件数等：議決事項・・・ 39件 ※「参考資料」参照
報告事項・・・ 40件 ※「参考資料」参照
- ③ 主な付議案件
 - 飯塚市地区公民館施設整備実施計画の策定
 - 認定子ども園に係る関係例規の整備
 - 平成27年度飯塚市奨学資金貸付審議会に係る諮問及び答申（補助執行事務）について
 - 平成28年度から使用する中学校教科用図書の採択
 - 山王山古墳の県史跡指定について
 - 鎮西中学校区小中一貫教育校開校に伴う小学校名、中学校名及び呼称に関する提案書について
 - 臨時代理の承認（飯塚市個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例）
 - 飯塚市立小学校設置条例及び飯塚市立中学校設置条例の一部を改正する条例
 - 飯塚市学校運営協議会委員の任命

etc

2 研修会等への参加状況

教育委員会会議以外にも、公式行事への参加、学校の訪問・意見交換会、他市町教育委員との合同研修会など、様々な活動を行っています。以下は、主に教育委員会事務局に案内や参加依頼があった案件のみ記載していますが、これ以外にも地域における様々な各種行事等へ参加しています。

◇会議・研修会等への出席

時期	名称	概要
平成27年4月	飯塚市立小・中学校管理職春季研修会	「学校教育プラン27」について学校教育課からの説明、「災害から生き延びるために」について講話
	福岡縣市町村教育委員会委員長・教育長会議	福岡県教育行政の主要施策について及び総会
	飯塚市子ども祭	イイヅカコスモスコモン前広場で開催された行事

5月	第53回文化財指定庭園保護協議会総会	総会及び「名勝の保護」、「名勝庭園『旧伊藤傳右エ門氏庭園』の保存と活用について」等の講演等
	福岡県市町村教育委員会女性教育委員研修会総会及び研修会	総会及び「放課後等の教育力の向上」～学校支援から家庭教育支援へ～についての講演等
6月	第34回飯塚新人音楽コンクール本選	ピアノ部門、声楽部門
	サニーベール中高生等来飯歓送迎会	来飯した米国カリフォルニア州のサニーベール市の中高生との交流事業等
7月	筑豊市町村教育委員会連絡協議会役員会等	「嘉麻市嘉穂地区小学校の取り組みについて」、「福岡県立嘉穂高等学校の中高一貫教育について」等の研修会
	筑豊市町村教育委員会連絡協議会	「ICTを活用した学校教育の創造について」の講演等
	同和問題啓発月間街頭啓発	イオン穂波ショッピングセンターに於いて来店者への街頭啓発活動
	第1回総合教育会議	議題：飯塚市総合教育会議運営要領、「飯塚市教育施策の大綱」の策定方針、教育行政
8月	飯塚市立小・中学校管理職夏季研修会	「学校における人権・同和に望むこと」、「飯塚市の学校・保護者・地域・子どもたちに求められるもの」についての講話等
	福岡県市町村教育委員会教育長研修会	「学力向上に向けて教育委員会に期待すること」についての講演及び各部会での研究討議
	筑豊教育事務所管内市町村教育委員等人権・同和教育研修会	「スクールソーシャルワーカーから見た子どもの人権」についての講演等
9月	サイエンスモール in 飯塚2015	総合科学の祭典、地元の高校や大学、企業などが36の体験ブースを設置
	第40回飯塚少年剣道大会	小学生の部及び中学生の部による個人戦・団体戦
10月	飯塚地区暴力追放・安全・安心まちづくり住民総決起大会	「ニセ電話詐欺防止関係」についての講演及び市中パレード
	筑豊市町村教育委員会教育長協議会	「福岡県立嘉穂高等学校附属中学の概要説明」及び同校の視察
	飯塚市発達障がい研修会	「学びの異なる子どもへの気づきと支援」～飯塚市でのMIM（ミム）の取組～についての講演

11月	いっぴく小学生の討論会	市内 22 小学校の代表 22 名による、テーマ「先生」についての討論会
	第 2 回総合教育会議	議題：「飯塚市教育施策の大綱」の素案、教育行政
平成 28 年 1 月	飯塚市成人式	飯塚本町宿場太鼓「龍王」による和太鼓演奏、近畿大学附属福岡高等学校バトン部による演技等
	飯塚市立小・中学校管理職 冬季研修会	「これからの教育」～大学におけるアクティブ・ラーニングと義務教育に期待すること～、「貧困の連鎖を教育の力で絶ち切る」について講演
2月	飯塚市小中学校 PTA 連合会 教育講演会	「子どもの伸ばし方」、「夢をもつ大切さ」についての講演
3月	飯塚市合併 10 周年記念式典	新市発足 10 周年を迎え、「NHK のど自慢」の記念事業及び式典等

◇学校訪問・行事等への出席

時 期	名 称	概 要
平成 27 年 4 月	小学校・中学校入学式	市立小学校 22 校 市立中学校 10 校
平成 27 年 4 月 ～平成 28 年 3 月	定例校長会	円滑な学校運営を図るために、様々な教育課題について協議
平成 27 年 6 月 、11 月	学校開放日	市立小学校 22 校・中学校 10 校で実施される公開授業の視察
平成 27 年 10 月	学校訪問	八木山小学校など各小中学校を訪問、授業視察等を踏まえ学校運営等についての意見交換
平成 27 年 10 月 ～平成 28 年 2 月	研究指定・委嘱校研究発表会	鯉田小学校など各小中学校を訪問、実践的な取り組み等の研究発表会の視察
平成 28 年 3 月	小学校・中学校卒業式	市立小学校 22 校 市立中学校 10 校

IV 平成27年度事務事業評価

1 点検・評価について

(1) 点検・評価する事務の対象

飯塚市教育施策要綱に掲げる主要施策を達成するために取り組んだ、主な事業を対象としています。

(2) 点検・評価の方法

(1)に係る事業ごとに、必要性、効率性、公平性の観点からその達成度について、それぞれの所管課・部署が自己評価を行い、点検・評価の客観性を確保するために第三者の方々に外部評価をいただきました。

外部評価については、教育に関し学識経験を有する者で、公正な意見を述べることを期待できる人を想定し、教育系大学の教授と講師、計2名の方に評価をいただきました。また、事業ごとに評価者と各所管課との間でヒアリングを実施し、各事業の達成度や成果等について意見聴取を行いました。

この点検・評価においては、事業ごとにその達成度・成果等に応じて、評価者2名の合議のもと、A（達成している）、B（概ね達成している）、C（課題がある）、D（事業見直しが必要）で評価しています。

(3) 結果の取扱い

評価の高い事業は引き続き実施し、評価の低い事業については課題や問題の解決を行うと同時に、事業の見直しについても検討していきます。

2 全体評価結果

(1) 全体集計結果

飯塚市教育施策要綱に掲げた主要施策を達成するために、平成27年度に実施した事務事業の中で、事業の必要性や継続性等の観点から学校教育分野で5事業、社会教育分野で5事業の計10事務事業の選定を行い、平成28年9月2日（金）ヒアリングを実施し外部評価者より評価をいただきました。

その結果、目標達成度は次の表のとおり、「A 達成している」が5事業で50%、「B 概ね達成している」が5事業で50%、「C 課題がある」、「D 事業見直しが必要」は0事業でした。

《評価結果集計表》

()内は率

評価 区分	A 達成	B 概ね達成	C 課題がある	D 要事業見直し	全 体
学校教育	2	3	0	0	5
社会教育	3	2	0	0	5
計	5 (50%)	5 (50%)	(-)	(-)	10 (100%)

(2) 外部評価講評

□福岡教育大学教授 井上 豊久

平成 27 年度に実施された 10 事業について聞き取りを含めて検討し、評価を行った。学校教育・社会教育各 5 事業、合計 10 事業中で「達成」5 件、「概ね達成」5 件と「達成」が昨年度よりも 1 件増えている。全体的に適切な実施であったと評価できる。以下、分析・考察を提示する。

学校教育に関して、「協調学習の推進」は各学校で取組がなされ、学力向上が期待されるが、一人一人の教師の実践、子ども主体学習の充実が必要であろう。「国際教育の推進」では外国人講師の活用においては各学校の連携は丁寧になされてきている。今後は一層工夫し、主体的に異質な他者と協働していく態度の育成が求められよう。「多層指導モデルの充実」では学力向上など一部に成果が明確にみられるようになったことは評価できる。検証・改善を行い、継続・発展させていくことが求められよう。「コミュニティ・スクールの推進」に関しては 2 地区では独自に進められているが、先進地の有効事例を参考にしながら、保護者や地域の参画を図り、市内の他の学校への拡充に取り組んでいくことも必要であろう。「ICT活用指導力の向上」は研究発表会の開催など、全体としては着実になされているが、教師の力量形成のためのより適切な研修が不可欠である。

社会教育に関して、「放課後子ども教室事業」では多様な場で子どもの学びのための様々な活動を取り入れるなど着実に実施されている。参加人数多数への対応も含め、地域、家庭等とのさらなる協働が求められよう。「中学生海外研修事業」では、参加希望者が増加してきていることは評価できる。参加後の地域ボランティアへの積極的参加も評価できるが、フォロー調査が求められよう。「地域イベント等開催への協力支援」では従来からの公民館の充実により協力が効果的になされているが、市民参画の視点から主体的な地域づくりを基本としたさらなる協働の拡充が求められる。「文化団体・飯塚市教育文化振興事業団との連携した事業」は工夫した事業が継続して進展されてきている。今後はさらなる事業の充実に加え、後継者不足などに関しても団体間やNPOとの連携が必要であろう。「市史編さん事業」は的確に実施されたことは評価できる。また、子ども用の副読本の作成は有用であるが、今後はさらなる具体的活用の充実ため学校教育との協働や生涯学習の場での活用に関しても展開させていくことが求められる。

平成27年度に実施された学校教育分野の5事業と社会教育分野の5事業についてヒアリングを中心に評価を行いました。合計10事業中「達成している」5件、「概ね達成している」5件でした。どの事業も問題はなく適切に実施されたと思われます。以下、それぞれの事業について評価の概要を述べます。

学校教育分野について、「協調学習の推進」では協調学習の充実・発展を目指した飯塚市独自の「エキスパート教員（推進員）の育成」の取組は評価できるので、取組の継続が大切だと思われます。今後は各学校の協調学習の成果をどのように検証していくのかが求められます。「国際教育の推進」は外国人講師を活用した継続的な取組に成果が見えてきていると思われます。今後は小中学校9年間を見通した取組が必要だと思われます。「多層指導モデル（MIM）」に関しては継続した取組により全小学校で成果が出ていることは非常に評価できます。今後もMIMの取組が継続されることを期待します。「学校・家庭・地域・行政が一体となったコミュニティ・スクールの推進」については、小学校2校で独自に進められていますが、先進校の事例を参考にすることが求められます。今後設置校を増やしていくには、学校で育まれる資質・能力が社会とどのようにつながっているのかについて、地域と学校が認識することが必要だと思われます。「ICT活用指導力の向上に係る取組の実施」では研究指定校を選定しタブレット端末や電子黒板等を導入した実践的研究が行われていることは評価できます。今後は教師のICT活用能力が求められます。

社会教育分野について、「放課後子ども教室事業」では各教室で様々なプログラムが実施されていることは評価できます。今後は実施場所や指導員の確保という課題に加えて、特別に支援を要する子どもの受け入れや対応について課題を解決することが必要だと思われます。「中学生海外派遣事業の実施」については、本事業に参加した中学生が様々なボランティア活動に主体的に参加している実態は非常に評価できます。今後は「国際教育の推進」事業と連携した中学生のコミュニケーション能力の育成が求められます。「地域イベント等開催への協力支援」では行政と地域が連携して地域格差を是正することが求められます。「文化団体・飯塚市教育文化振興事業団との連携した事業の実施」では、入場者数などから取組の成果が出ていると判断できます。今後も参加推進のための情報発信が必要だと思われます。「市史編さん事業（歴史編）の実施」では、副読本「発見！ いづかの歴史」が飯塚市史と合わせて作成されたことは非常に評価できます。今後は学校現場での活用が求められます。

3 取組み施策別評価結果

表の
見方

- ※ 「No.」は「事務事業に係る点検・評価一覧表」のシートNo.
- ※ 「事業等」は「事務事業に係る点検・評価一覧表」の取組施策等
- ※ 「所管課」は事業等を行った担当部署
- ※ 「意見等」はヒアリングにおける評価者2名の意見等
- ※ 「評価」・・・ A(達成している) B(概ね達成している)
 C(課題がある) D(事業見直しが必要)

(1) 学校教育

☆学力の向上

学力向上のため、確かな学力の基盤となる、基礎・基本の確実な定着と思考力・判断力・表現力の育成を図ります。小学校第1学年から第4学年及び中学校第1学年においては、少人数による学級編制を行い、一人ひとりの個性や能力を引き出す教育活動を推進します。

No.	事業等	所管課	意見等	評価
1	協調学習の推進	学校教育課	小中学校における協調学習の更なる充実・発展を実現するために、飯塚市独自で条件等を設定し育成している「エキスパート教員(推進員)の育成」については、『飯塚市がめざす教育』を推進する重要施策のひとつとなっている。 協調学習になぜ取り組むのかという目的意識を明確化し、市内小・中学校において実施される研修会や授業研究での、実践的研究により教員のスキル向上と連携・協働を推進し、子どもたちの資質・能力の向上に努めて頂きたい。	A

☆豊かな人間性の育成

教育活動全体を通して、道徳性を養う心の教育の充実を図ります。また、国際化に対応するため、外国語指導助手の活用及び外国人児童生徒への教育支援に努めます。

No.	事業等	所管課	意見等	評価
2	国際教育の推進	学校教育課	<p>グローバル化に向けた英語教育として、小学校では 5・6 年生、中学校では全学年を対象に外国人講師を学校に派遣し、児童・生徒が英語に慣れ親しみコミュニケーション能力の育成、教師の英語能力及び指導力の向上を図るという実践的な学習の取組が行われている。また、カリフォルニア州サニーバール市の学校との学校間交流や各学校で実施している国際交流活動等により積極的に学ぶ児童・生徒の育成がなされている。</p> <p>今後、事業継続の中では、子どもたちが積極的にコミュニケーション能力を高めることができるよう、また小中学校で一貫した取組みとなるように工夫改善をおこない、より充実した事業とされることを期待する。</p>	B

☆特別支援教育の充実

特別支援教育の充実を図ります。

No.	事業等	所管課	意見等	評価
3	多層指導モデル (M I M) の充実	学校教育課	<p>市立の全小学校第 1 学年の児童を対象に、特殊音節の早く正確な「読み」に焦点をあてた指導と継続的なテストの実施により、MIM 事業実施以前から比べ児童の能力が 7 ポイント伸びている。その中で、特別な支援を要する児童がいる場合には補足的な指導を行うという取組みがなされ、近隣市町村では珍しいことであり非常に評価出来る。</p> <p>今後、この事業による児童・生徒の状況に応じた支援の充実を図り、学習の相乗効果等を分析し、事業の有効性、成果等の公表を通じて、当該事業の継続・拡充に努めてほしい。</p>	A

☆家庭・地域社会との連携協力

家庭や地域との連携・協力による学校づくりを推進するため、保護者や住民の意向を把握し、学校運営に反映させるシステムの確立に努めます。

No.	事業等	所管課	意見等	評価
4	学校・家庭・地域・行政が一体となったコミュニティ・スクールの推進	学校教育課	<p>高田小、八木山小の2地区で組織されており、今後の設置を予定する学校についても協議会設立に向け支援がなされている。</p> <p>学校運営協議会では、学校運営に地域住民の声を活かすとともに、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たすために特色ある取組みが行われている。</p> <p>今後も継続し、学校は、積極的な情報提供を通じ地域住民等の理解と協力・支援を受けながら学校運営を推進し、新たな視点を取り入れ、児童生徒の健全育成の取り組みの充実に努められることを期待する。</p>	B

☆情報教育の充実

教育の情報化を推進するため、情報教育の充実を図るとともに、インターネット等ICTを活用した教育内容・方法の研究・実践に努めます。

No.	事業等	所管課	意見等	評価
5	ICT活用指導力の向上に係る取組の実施	学校教育課	<p>ICTを活用した新たな学びの推進として、今後のICT教育推進のため研究指定校を選定しタブレット端末や電子黒板等を試験的に導入した実践的研究が行われ、各指定校において実践的な研究発表会が開催された。</p> <p>ICTを活用した教育を進めるうえでは、教師に求められる能力（ハードスキル・ソフトスキル）が重要なテーマのひとつとなる。</p> <p>今後の学校ICT推進・整備を進めるにあたり、27年度に実施された調査・研究を基に、教師に求められる能力向上についての方策やICTを活用した授業の効果を客観的に測定するための手法等について十分に検討していく必要がある。</p>	B

(2) 社会教育

☆様々な学びの機会の提供

ライフステージに応じた学びの機会を提供し、様々な事業の推進と充実を図ります。

No.	事業等	所管課	意見等	評価
6	放課後子ども教室事業の実施	生涯学習課	<p>児童の学習に対する意欲向上や基本的な生活習慣の習得を図るために、学校や公民館施設等で、様々なプログラムが実施されている。また、児童クラブと連携した実施により活動の場が広がっており、「子どもの安全・安心な居場所づくり」の取組が推進されている。</p> <p>事業によっては、参加者人数が多数となった場合の場所確保、指導員不足の問題、連携事業の場合における責任の所在の明確化等の解決していく課題がある。</p> <p>今後、全ての子どもたちを対象とした“学びの場の提供”の事業拡大に向けては、解決すべき課題の把握に努め行政組織間での連携体制を確立し事業の充実に努めてほしい。</p>	B

☆交流事業および体験活動の充実

将来に対する目的意識や社会性、主体性を培うための様々な交流事業の推進と体験活動の充実を図ります。

No.	事業等	所管課	意見等	評価
7	中学生海外研修事業の実施	生涯学習課	<p>国際的な視野を持って活躍できる人材育成事業の一環として、平成25年度に友好交流関係協定を締結した米国カリフォルニア州サニーベール市において、ホームステイや学校訪問を通じて交流事業を実施している。</p> <p>帰国後は、いづか人材育成グループ「ユリシス」に所属し地域ボランティア活動に参画するなど地域貢献がなされており事業の成果としても評価でき有意義な事業となっている。また、募集定員20名に対し応募が36名となっており、この事業についての報告会等を通じて多くの市民にアピールして頂き、急速にグローバル化が進展する中で、この貴重な経験を今後の飯塚市のまちづくりに繋がる人材育成事業として、長期的な視点に立って継続・発展させてほしい。</p>	A

☆地域コミュニティの推進

地区公民館を拠点とした地域コミュニティの構築を目指します。

No.	事業等	所管課	意見等	評価
8	地域イベント等開催への協力支援	生涯学習課	<p>地区公民館は、地域団体等が主催する事業の事務局等として積極的に、住民運動会やどんど焼き祭り、ちくほ夏祭りなどに関わり、企画運営の支援を行なっている。</p> <p>地域コミュニティの構築のためには、地域の特性や市民ニーズ等を的確に把握し、地域と行政がよきパートナーとして協働のまちづくりが展開できるような組織づくり等に尽力してほしい。</p>	B

☆文化の振興

飯塚市文化振興マスタープランの基本理念である「個性豊かな新しい文化の創造」の実現に向けて芸術文化活動推進に努めます。

No.	事業等	所管課	意見等	評価
9	文化団体・飯塚市教育文化振興事業団との連携した事業の実施	文化課	<p>事業等の目標値を設定している事業について、文化祭事業部会議を重ね開催日数は減となっているが、各会場で充実した文化祭を実施することができ、その開催日数減を考慮すれば例年以上の入場者となっていると考えられる。一本化した飯塚文化連盟発足記念や飯塚市合併 10 周年を記念しての嘉穂劇場における喜多郎氏を招いたコンサート等の質の高い文化芸術に触れる機会の創出が展開されている。</p> <p>飯塚市文化連盟と連携した、伝統文化親子教室事業、e-ZUKA どんどこキッズ太鼓共演会、学校への出前講座等の様々な文化事業に取り組んでいる中で、後継者不足という深刻問題を抱えている。</p> <p>今後も、魅力ある事業の企画・提案、若年層の参加促進のため幅広く地域の文化芸術についてホームページや市報等を活用した情報発信に努められ、文化芸術の振興と個性豊かな文化の創造に向けて事業の充実に努めてほしい。</p>	A

☆文化財の保存・継承・活用

文化財の保存・整備・活用を図るとともに、地域の文化や特色を伝承する民俗芸能の保存・継承・活用を進めます。

No.	事業等	所管課	意見等	評価
10	市史編さん事業（歴史編）の実施	文化課	<p>合併 10 周年記念事業の一環として、「飯塚市史」（歴史編）の編集作業が終了し、平成 27 年度末に上・中・下巻、写真集の 4 巻構成で刊行された。</p> <p>子どもたちに、飯塚の歴史について興味を持ってもらいたいとの思いで、飯塚市史と併せて作成された副読本「発見！いいづかの歴史」は、市内小中学校において十分に活用できるものとなっており教育活動等につながる有意義な作成事務であったと評価できる。今後、活用に対する現実的な対応を検討し、積極的な事業展開を期待したい。</p>	A

事務事業に係る点検・評価シート一覧表（平成27年度実施）

区 分	シートNo.	取組み施策等
学 校 教 育	1	協調学習の推進
	2	国際教育の推進
	3	多層指導モデル（MIM）の充実
	4	学校・家庭・地域・行政が一体となったコミュニティ・スクールの推進
	5	ICT活用指導力の向上に係る取組の実施
社 会 教 育	6	放課後子ども教室事業の実施
	7	中学生海外研修事業の実施
	8	地域イベント等開催への協力支援
	9	文化団体・飯塚市教育文化振興事業団との連携した事業の実施
	10	市史編さん事業（歴史編）の実施

点検及び評価シート

No. 1

対象年度	27年度	所管課名	学校教育課
1 区 分	学校教育		
2 主要施策	<p>【2. 学力の向上】</p> <p>学力向上のため、確かな学力の基盤となる、基礎・基本の確実な定着と思考力・判断力・表現力の育成を図ります。小学校第1学年から第4学年及び中学校第1学年においては、少人数による学級編制を行い、一人ひとりの個性や能力を引き出す教育活動を推進します。</p>		
3 取組・事業の内容	(1)事業等名	協調学習の推進	
	(2)事業等の内容	東京大学等と連携し、思考力等の育成を目的とする「協調学習」について実践的研究を行う。	
	(3)事業等の目標値	協調学習に係る推進員の育成（小3人、中3人）	
4 取組状況・成果・目標値との対比など	<p>【取組み状況】</p> <p>「在籍校における授業実践」及び「研修会や授業研究での指導助言」等をとおして、推進員（エキスパート教員）を養成している。</p> <p>【成果】</p> <p>市内における研修会や授業研究での指導助言及び研究所員への指導助言を行うことができる人材が育成されている。</p> <p>【目標値との対比】</p> <p>平成27年度までに10名の推進員を育成することができた。 ※平成26年度4名（小2、中2）、平成27年度6名</p>		
5 取組・事業の課題、今後の方向性など	<p>○ 協調学習を市内教員へ広げるためのエキスパートとしての推進員の育成を更に拡大する必要がある。</p> <p>○ 飯塚市立小中学校における協調学習の更なる充実・発展を実現するために、事業内容の整理が必要である。</p>		

点検及び評価シート

No. 2

対象年度	27年度	所管課名	学校教育課
1 区 分	学校教育		
2 主要施策	<p>【3. 豊かな人間性の育成】</p> <p>教育活動全体を通して、道徳性を養う心の教育の充実を図ります。また、国際化に対応するため、外国語指導助手の活用及び外国人児童生徒への教育支援に努めます。</p>		
3 取組・事業の内容	(1)事業等名	国際教育の推進	
	(2)事業等の内容	<p>○小学校</p> <p>英語でのコミュニケーションや発音または文化等を紹介できる外国人講師等を招聘し、児童のコミュニケーション能力の素地を育成する。</p> <p>○中学校</p> <p>中学校における外国語の授業に外国人講師を派遣し、生徒の英会話によるコミュニケーション能力や積極的に英語に慣れ親しむ態度の育成を図る。外国人講師と関わることにより、生徒に母国の言語や文化に触れる機会を提供する。</p>	
	(3)事業等の目標値	<p>○小学校 派遣実施率 100%</p> <p>○中学校 ALT の延べ派遣日数 564 日、コーディネーターの延べ訪問校数 110 回</p>	
4 取組状況・成果・目標値との対比など	<p>【取組み状況】</p> <p>○小学校</p> <p>7名の外国人講師を派遣できる体制を整え、各小学校5・6年生に講師を派遣した。</p> <p>○中学校</p> <p>委託業者を通して、各中学校へ3名の外国人講師及びコーディネーターを派遣した。</p> <p>【成果】</p> <p>○小学校</p> <p>各小学校から、派遣について、児童の指導に「活用できた」または「だいたい活用できた」の回答が100%であった。日程表や指導案の送付などの学校と講師との連絡・調整が円滑に行われた。</p> <p>○中学校</p> <p>ALTの母国の生活や文化について紹介がなされるなど、異文化についての理解を図る活動が実施され、教育内容の充実につながった。インタビューテストで生徒へ質問し、評価を行うなどコミュニケーション力の評価もALTを活用するなど、生徒の英会話力の重要性を意識させることや英語への興味・関心を高めることができた。また、リスニング力も向上している。</p>		

	<p>【目標値との対比】</p> <p>○小学校 派遣実施率 100%</p> <p>○中学校 外国人講師の延べ派遣日数 577 日。達成率 102.3% コーディネーターの延べ訪問校数 121 校。達成率 110%</p>
<p>5 取組・事業の課題、 今後の方向性など</p>	<p>【課題】</p> <p>○小学校 平成 28 年度より実施予定の 6 年生を対象としたオンライン英会話の取り組みに向けて、従来の ALT での体験的な活動で英語に慣れ親しむ内容に加え、「話す」「聞く」の技能の素地を着実に身に付けさせていく内容を検討し、ALT と連携した授業展開を行なっていく。</p> <p>○中学校 ALT の活用について、学校及び委託業者との情報交換を密にすることで、より効果的な運用について検討を行なっていく。</p>

点検及び評価シート

No. 3

対象年度	27年度	所管課名	学校教育課
1 区 分	学校教育		
2 主 要 施 策	【6. 特別支援教育の充実】 特別支援教育の充実を図ります。		
3 取組・事業の内容	(1)事業等名	多層指導モデル(MIM)の充実	
	(2)事業等の内容	異なる学力層の子どもに応じた学習のつまずきへの早期支援及び予防的支援となる指導支援の多層指導モデルを、市内全22小学校の第1学年国語科を中心に推進し、読みの力の定着及び学力向上を図ることを目的とする。 また、平成26年度から27年度にかけて文部科学省の委託を受け「発達障がいの可能性のある児童生徒に対する早期・継続支援事業」を推進している。	
	(3)事業等の目標値	MIM指導者研修会 年3回 発達障がいの可能性のある児童生徒に対する早期支援事業運営委員会の開催 年3回	
4 取組状況・成果・目標値との対比など	<p>【取組み状況】</p> <p>MIM指導者研修会を計画的に実施し、文部科学省委託事業を昨年度より継続・発展させて実施することができた。</p> <p>【成果】</p> <p>MIM指導者研修会を実施することで、読みの苦手な児童に対する具体的な手立てが分かり、教師の指導力が向上し、児童の読みの力を高めることができた。(読書力診断テストで、MIM指導を行った児童において、全ての項目で全国平均を上回っている。)</p> <p>発達障がいの可能性のある児童生徒に対する早期支援事業を行い、各ブロックの協議を行うことで、MIMを各学校やブロックごとに自立して行う素地を作ることができた。</p> <p>【目標値との対比】</p> <p>MIM指導者研修会を計画通り年3回実施することができた。</p> <p>発達障がいの可能性のある児童生徒に対する早期支援事業運営委員会を年3回開催することができた。</p>		
5 取組・事業の課題、今後の方向性など	<p>【課題と今後の方向性】</p> <p>現在、国立特別支援教育総合研究所の協力を得て本事業を実施している。今後は、ブロック協議会の活動の充実等により、飯塚市独自でMIM指導を推進できるようにしなければならない。</p> <p>さらに、発達障がいの可能性のある児童生徒に対する相談支援システムを整備することで、児童の特性をいち早く理解し指導に生かすことで学習のつまずきをより少なくする取組に努めていく。</p>		

点検及び評価シート

No. 4

対象年度	27年度	所管課名	学校教育課
1 区 分	学校教育		
2 主要施策	【10. 家庭・地域社会との連携協力】 家庭や地域との連携・協力による学校づくりを推進するため、保護者や住民の意向を把握し、学校運営に反映させるシステムの確立に努めます。		
3 取組・事業の内容	(1)事業等名	学校・家庭・地域・行政が一体となったコミュニティ・スクールの推進	
	(2)事業等の内容	学校運営に関して、教育委員会及び校長の権限と責任の下、保護者および地域住民の学校運営への参画の促進、連携強化を進めることにより、学校と保護者、地域住民との信頼関係を深め、一体となって学校運営の改善、児童生徒の健全育成に取り組む。	
	(3)事業等の目標値	学校運営協議会会議の年間予定回数 5回	
4 取組状況・成果・目標値との対比など	<p>【取組み状況】</p> <p>高田小、八木山小においては学校運営協議会の取組に参加することで、保護者・地域住民同士のネットワークが構築され、地域コミュニティの再生につながっている。</p> <p>【成果】</p> <p>高田小学校においては、学校運営協議会が機能し、学校運営に地域住民の声を活かすとともに、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たすための取組が行われている。八木山小学校においても、学校運営協議会の体制が整備され、学校・家庭・地域が連携した取組が行われている。</p> <p>【目標値との対比】</p> <p>高田小学校、八木山小学校ともに予定通り5回の学校運営協議会会議を実施することができている。</p>		
5 取組・事業の課題、今後の方向性など	<p>高田小学校、八木山小学校における学校運営協議会の充実を図り、小中一貫校をはじめ、他の小中学校における学校運営協議会の設置を促進する必要がある。</p> <p>また、平成28年度から設置予定している内野小学校、筑穂中学校の支援を行なっていく。</p>		

点検及び評価シート

No. 5

対象年度	27年度	所管課名	学校教育課
1 区 分	学校教育		
2 主要施策	<p>【13. 情報教育の充実】</p> <p>教育の情報化を推進するため、情報教育の充実を図るとともに、インターネット等ICTを活用した教育内容・方法の研究・実践に努めます。</p>		
3 取組・事業の内容	(1)事業等名	ICT活用指導力の向上に係る取組の実施	
	(2)事業等の内容	<p>○ICT活用モデル事業</p> <p>将来的に、タブレット端末等をすべての飯塚市立小・中学校へ導入予定としているため、モデル校を選定し、タブレット電子黒板等を配置し、授業での効果的な活用および家庭学習での活用等について検証する。</p> <p>○ICT活用教育研修会</p> <p>九州工業大学と連携し、今後のタブレット端末の導入に向けた授業への活用力及び情報モラル教育についての指導力の向上を図るための研修会を実施する。</p>	
	(3)事業等の目標値	<p>○ICT活用モデル事業</p> <p>モデル事業実施校の子ども対象のアンケートで、「電子黒板やタブレットを使った授業は楽しいですか」「電子黒板やタブレットを使った授業はわかりやすいですか」「電子黒板やタブレットを使うと話し合いがしやすいですか」「電子黒板やタブレットを使うと振り返りがしやすいですか」の項目で「そう思う」「ややそう思う」の回答を80%以上とする。</p> <p>○ICT活用教育研修会</p> <p>研修会への参加人数64名以上（各学校2名以上）</p>	
4 取組状況・成果・目標値との対比など	<p>【取組み状況】</p> <p>○ICT活用モデル事業</p> <p>飯塚小学校・庄内中学校各校にタブレット41台、電子黒板2台を配置し、日常の授業での活用及び研究授業の公開を行った。</p> <p>○ICT活用教育研修会</p> <p>九州工業大学飯塚キャンパスにおいて、NPO法人情報教育支援研究会、九州工業大学学習教育センター助教等を講師として招き、タブレットの活用及び情報モラル教育についての研修会を実施した。</p>		

	<p>【成果】</p> <p>○ I C T活用モデル事業 児童へのアンケート結果から、I C T機器を活用することにより、90%以上が「電子黒板やタブレットを使った授業は楽しい」と答え、また、アクティブ・ラーニングでは欠かせない「討議活動」や「振り返り活動」においても、児童たちは「電子黒板やタブレット」が効果的であったと実感していることがわかった。</p> <p>また、デジタル学習ドリルを使用した生徒（定期考査学年平均点以下の生徒を調査対象）の定期考査の成績が向上し、学年平均とほぼ同じ、または、学年平均を超える結果となった。</p> <p>○ I C T活用教育研修会 106名の教職員が研修会に参加し、タブレット端末の活用や情報モラル教育についての理解を深めることができた。また、研修後のアンケートでもすべての参加者が、「とても役立った」「役立った」と回答した。</p> <p>【目標値との対比】</p> <p>○ I C T活用モデル事業 すべてのアンケート項目で「そう思う」「ややそう思う」の回答が90%以上の結果となった。</p> <p>○ I C T活用教育研修会 106名の教職員の参加（目標値に対して165%）</p>
<p>5 取組・事業の課題、今後の方向性など</p>	<p>現在、各学校からの希望制で実施しているI C T活用教育研修会を、各学校の情報教育担当者教員の参加を必須としたものに変更していくことで、全小中学校での足並みのそろったI C T活用教育を推進していく。</p> <p>モデル校による実践を各小中学校に広く公開していくことで、今後のタブレット端末等の導入に対応できる学校の体制作りを構築していく。</p>

点検及び評価シート

No. 6

対象年度	27年度	所管課名	生涯学習課
1 区分	社会教育		
2 主要施策	【2. 様々な学びの機会の提供】 ライフステージに応じた学びの機会を提供し、様々な事業の推進と充実を図ります。		
3 取組・事業の内容	(1)事業等名	放課後子ども教室事業の実施	
	(2)事業等の内容	<p>学校の放課後や週末等に小学校の余裕教室や公民館施設等を活用し、各学校・地域との連携により、優しさや積極性・協調性といった社会性を身につけ、「生きる力」をもった子どもの育成を支援する。更に地域社会の課題となっている「子どもの安全・安心な居場所づくり」を推進する。</p> <p>《参考》各放課後子ども教室による目的に則した様々な教室 そろばん・書道・プレーパーク・カルタ・英会話 等</p>	
	(3)事業等の目標値	事業開催数 1,600 回、参加者数 24,000 人	
4 取組状況・成果・目標値との対比など	<p>【取組み状況】</p> <p>児童の学習に対する意欲の向上や基本的な生活習慣の習得等を図るために、平日の放課後及び土曜日の週 2 日、学校や公民館施設等でニュースポーツ、ものづくり、英会話、カルタ、書道、そろばん、料理、体力アップ講座など、様々な体験・交流・学習プログラムを実施した。</p> <p>また、平成 27 年度 3 学期より、旧 4 町（穂波・筑穂・庄内・穎田）の 10 教室で児童クラブと連携した合同プログラム（朗唱）を試行的に実施した。</p> <p>【成果】</p> <p>既存のプログラムの充実を図るために開催数の増加を行い、平成 26 年度と比較し、実施回数は 28 回、総参加者数は 868 名の増加となった。</p> <p>また、児童クラブとの連携を行っていく上で、連携を行う時間・実施場所・活動内容等について相互に調整を行った。その中で児童クラブとの協力体制の下地を構築することができた。</p> <p>【目標値との対比】</p> <p>参加者数率 110.7%（実績 26,568 名／目標 24,000 名） 年間開催数率 103.75%（実績 1,660 回／目標 1,600 回）</p> <p>※参考 平成 26 年度実績 参加者数 25,700 名、実施回数 1,632 回</p>		
5 取組・事業の課題、今後の方向性など	平成 27 年度 3 学期より先行して旧 4 町（穂波・筑穂・庄内・穎田）の 10ヶ所の放課後子ども教室で児童クラブとの連携事業を行っており、その中で実践することで新たに出てきた課題を残りの各地区（校区）放課後子ども教室及び児童クラブと共有しながら、平成 29 年度からの市内全放課後子ども教室及び児童クラブとの連携事業をスムーズに行っていく必要がある。		

点検及び評価シート

No. 7

対象年度	27年度	所管課名	生涯学習課
1 区分	社会教育		
2 主要施策	【3. 交流事業および体験活動の充実】 将来に対する目的意識や社会性、主体性を培うための様々な交流事業の推進と体験活動の充実を図ります。		
3 取組・事業の内容	(1)事業等名	中学生海外研修事業	
	(2)事業等の内容	【事業計画】 ①募集定員 20名 ②選考試験 4月 ③事前研修 (仲間づくり、宿泊研修、サニバー市学生との交流、ホームステイ、語学研修、コミュニケーション研修等) ④現地研修 (7泊9日/アメリカ カリフォルニア州サニバー市近郊) ⑤事後研修 (研修報告書作成) ⑥帰国報告会 10月 ⑦事後活動 (各種情報提供、活動支援など)	
	(3)事業等の目標値	海外研修事業の参加者数、事後活動への参加	
4 取組状況・成果・目標値との対比など	【取組み状況】 平成26年度に研修地を見直し、治安の安定、ホームステイを主体とした体験型の研修、英語圏の国を主な条件とするなかで、平成25年度に友好交流関係協定を締結したサニバー市があるアメリカカリフォルニア州を研修地とした。 <実施> ①応募者数 36名 (4月6日～4月22日まで募集) ②選考試験 4月29日 (作文試験、英語筆記試験、面接の実施) 20名決定 ③事前研修 5月～8月 4回 (宿泊研修1回含) ④現地研修 7泊9日 (8月19日～27日) アメリカ カリフォルニア州サニバー市近郊 ⑤事後研修 9月～10月 2回 (研修報告書作成) ⑥帰国報告会 10月25日 (研修生全員による研修報告、記録DVDの放映) ⑦事後活動 11月～3月 11回延べ50人 (各種情報提供、活動支援など) ※現在もボランティア団体 (エリス) の一員として、活動を継続している。 【成果】 現地での交流を通して、語学やコミュニケーションの大切さを感じ、今後の人生や学校生活に活かしたいという意見があり、中学生に様々な変化がみられた。また、帰国後の事後活動で外国人との交流や市主催の成人式やお祭り等にボランティアとして積極的に参加している。		

	【目標値との対比】	
	H26	H27
	海外研修事業の参加者数	20 人
	事後活動への参加回数	12 回
	事後活動への参加者数	36 人
5 取組・事業の課題、 今後の方向性など	<p>研修生のコミュニケーション能力不足があり、現地でも指摘を受けた。事前研修の中で、語学学習やコミュニケーション能力を養う研修を強化していく必要がある。</p>	

点検及び評価シート

No. 8

対象年度	27年度	所管課名	生涯学習課
1 区分	社会教育		
2 主要施策	【7. 地域コミュニティの推進】 地区公民館を拠点とした地域コミュニティの構築を目指します。		
3 取組・事業の内容	(1)事業等名	地域イベント等開催への協力支援	
	(2)事業等の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・市内 12 地区公民館の内、8 地区（二瀬、幸袋、鎮西、菰田、立岩、飯塚東、飯塚、鯉田）の公民館では、地域住民総参加の住民運動会を秋季に実施。（今年度は菰田地区と東地区で開催。） ・市内 12 地区公民館の内、5 地区（鎮西、飯塚東、鯉田、穂波、颯田）の公民館毎及び穂波地区小学校区で、地域住民の安全安心を願って 1 月上旬に、どんと焼き祭りの実施。 ・筑穂公民館では、8 月に福岡県のへそにちなんだ「へそダンスコンテスト」による「ちくほ夏祭り」の実施。 ・地区公民館まつりとまちづくり協議会主催事業等の同時開催や年間を通じた地域づくり事業における企画や運営について支援。 	
	(3)事業等の目標値	来場者数 15,000 人	
4 取組状況・成果・目標値との対比など	<p>【取組み状況】</p> <p>地区公民館は、地域団体等が主催する事業の事務局等として大きく関わっているため、住民運動会やどんと焼き祭り、ちくほ夏祭りでの実行委員会事務局として企画運営の支援を行なっている。どれも長く継続し定着しているイベントとして、地域にとってはなくてはならないものと認識されており、各地区コミュニティ運営を担っているまちづくり協議会の活動拠点として、地区公民館事業との連携による地域イベント事業の拡大が図られてきている。</p> <p>【成果】</p> <p>地域イベントは、地域住民が一同に集う貴重な機会となっており、地域住民の連帯感や帰属意識の醸成が図られている。また、まちづくりの観点から、活動のプロセスとして必要な集い・交流・啓発といった役割を担っていることが、安心安全な環境づくりや地域の問題解決、新たな創造に向けた多様な活動と事業展開に繋がっている。</p> <p>【目標値との対比】</p> <p>27 年度目標値 15,000 人に対し実績 8,640 人、達成率 57,6% となった。主な減要因としては、5 地区開催予定の地区住民運動会が台風の影響等で 3 地区が中止となったため</p>		
5 取組・事業の課題、今後の方向性など	<p>地域コミュニティの構築は、地区公民館を拠点とした各地区まちづくり協議会の運営、活動強化に伴う事業の主催が公民館からまちづくり協議会への移行が図られることにより、推進されつつあるが、地域力が不足している地区もあり、公民館を中心とした地域活性化を図り、コミュニティ活動の支援を強化していく必要がある。</p>		

点検及び評価シート

No. 9

対象年度	27年度	所管課名	文化課
1 区分	社会教育		
2 主要施策	<p>【9. 文化の振興】</p> <p>飯塚市文化振興マスタープランの基本理念である「個性豊かな新しい文化の創造」の実現に向けて芸術文化活動推進に努めます。</p>		
3 取組・事業の内容	(1)事業等名	文化団体・飯塚市教育文化振興事業団との連携した事業の実施	
	(2)事業等の内容	<p>飯塚コスモスコモンやイイツカコミュニティセンター、各地区公民館等を会場として飯塚文化連盟加盟団体及び一般市民対象の飯塚総合文化祭等の文化芸術活動を行う。日頃の活動の成果を発表、展示して広く市民に公開し、文化芸術活動の振興を目指す。</p> <p>飯塚市文化会館の指定管理者として飯塚市教育文化振興事業団により自主文化事業を実施する。</p>	
	(3)事業等の目標値	<p>文化祭入場者数 前年度比 100%を目指す</p> <p>公募美術展の出展数 前年度比 100%を目指す</p>	
4 取組状況・成果・目標値との対比など	<p>【取組み状況】</p> <p>合併後各地区で活動していた文化協会が一本化し飯塚文化連盟として新しくスタートして初めての飯塚総合文化祭を平成 27 年 10 月 18 日から 11 月 15 日まで開催した。公募美術展においては賞品から賞金授与に変更する等出展者増加に向けて見直しを行った。</p> <p>文化会館の自主文化事業として鑑賞型事業 16 件、参加育成型事業 16 件、出前講座型事業 13 件を実施した。</p> <p>【成果】</p> <p>文化祭事業部会議を重ね各会場で充実した文化祭を行うことができた。一本化した飯塚文化連盟発足記念と、飯塚市合併 10 周年を記念して嘉穂劇場で喜多郎氏を招いてコンサートを行うなど質の高い文化芸術に触れる機会を創出することができた。公募美術展においては出展数が増加する成果があった。</p> <p>【目標値との対比】</p> <p>文化祭入場者数 目標達成率 91.38% (目標値 10,000 人、実績 9,138 人)</p> <p>公募美術展の出展数 目標達成率 123% (目標値 100 点、実績 123 点)</p>		
5 取組・事業の課題、今後の方向性など	<p>文化祭における飯塚コスモスコモンでのステージ部門開催日程の見直しにより 26 年度は 5 週にわたり開催していたが 27 年度は 3 週間での開催としたため入場者の減となった。今後会場相互の情報交換や広報、日程調整等の工夫により入場者を増やす取り組みが必要である。</p> <p>また、担い手の減少が懸念されることから若年層の参加促進のための方策を検討していく必要がある。</p>		

点検及び評価シート

No. 10

対象年度	27年度	所管課名	文化課
1 区分	社会教育		
2 主要施策	【11. 文化財の保存・継承・活用】 文化財の保存・整備・活用を図るとともに、地域の文化や特色を伝承する民俗芸能の保存・継承・活用を進めます。		
3 取組・事業の内容	(1)事業等名	市史編さん事業（歴史編）の実施	
	(2)事業等の内容	<p>合併10周年記念事業の一環として、「飯塚市史」（歴史編）の編集及び平成22年度まで総務課で行っていた行政編の再編集を行い、平成27年度末に刊行。</p> <p>事業は庁内関係部長による編さん委員会、執筆者及び部会代表者による企画編集有識者会議兼編集委員会を組織し、編集、構成、印刷、製本は「柗ぎょうせい」に委託。上・中・下巻、写真集の4巻構成。</p>	
	(3)事業等の目標値	飯塚市史の刊行	
4 取組状況・成果・目標値との対比など	<p>【取組み状況】</p> <p>平成23年度より文化課（当時、文化財保護課）に市史編さん事務局を設置し、市史の構成、執筆者の選定作業等を行い、各部会、執筆者、業者と打ち合わせを行いながら編集作業を実施。</p> <p>また、現地調査、聞き取り調査なども行い最新の情報を掲載。</p> <p>【成果】</p> <p>市内公民館、図書館等の施設や県内図書館、教育委員会、資料館等に配布し、市民に対する周知方法として市HP、新聞社へ掲載依頼。</p> <p>また、合併10周年記念の事業として、資料館において執筆者による講座を行う予定。（8月～11月、講座10回、バスハイク）</p> <p>【目標値との対比】</p> <p>計画通り、平成27年度末に刊行。</p>		
5 取組・事業の課題、今後の方向性など	飯塚市史の刊行について広く周知し、飯塚市の歴史について市民に理解を深めてもらう。		

参考資料

1 平成 27 年度 教育委員会会議付議議案等一覧

(1) 教育委員会会議付議案件

件 名	提出日
教育財産の用途廃止(伊岐須小学校敷の一部)	H27. 4. 16
飯塚市中心身障がい児(生)就学指導委員会委員の委嘱又は任命	H27. 4. 16
飯塚市学校運営協議会委員の任命	H27. 4. 16
飯塚市地区公民館施設整備実施計画の策定	H27. 4. 16
飯塚市中心身障がい児(生)就学指導委員会委員の委嘱	H27. 5. 19
飯塚市学校運営協議会委員の任命	H27. 5. 19
飯塚市いじめ・不登校問題連絡協議会委員の委嘱	H27. 5. 19
飯塚市立学校通学区域審議会委員の任命	H27. 5. 19
飯塚市社会教育委員の委嘱	H27. 5. 19
飯塚市歴史資料館運営協議会委員の任命	H27. 5. 19
臨時代理の承認(平成 27 年度教育費に係る補正予算要求)	H27. 6. 10
飯塚市いじめ・不登校問題連絡協議会委員の委嘱又は任命	H27. 6. 10
飯塚市公民館運営審議会委員の委嘱	H27. 6. 10
飯塚市中心身障がい児(生)就学指導委員会委員の委嘱	H27. 7. 17
飯塚市給食運営審議会委員の委嘱又は任命	H27. 7. 17
臨時代理の承認(教育財産の取得の申出「飯塚市立鎮西中学校区小中一貫校等用地」)	H27. 7. 17
臨時代理の承認(土地の取得「飯塚市立鎮西中学校区小中一貫校等用地」)	H27. 7. 17
飯塚市図書館運営審議会委員の任命	H27. 7. 17
平成 28 年度から使用する中学校教科用図書の採択	H27. 8. 24
飯塚市立学校通学区域審議会委員の委嘱又は任命	H27. 8. 24
臨時代理の承認(平成 27 年度教育費に係る補正予算要求)	H27. 9. 11
飯塚市教育委員会事業評価結果(平成 26 年度分)	H27. 10. 19
教育財産の用途廃止(川島古墳公園の一部)	H27. 10. 19
平成 27 年度教育費に係る補正予算	H27. 11. 13
臨時代理の承認(飯塚市個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例)	H27. 12. 16
飯塚市給食運営審議会委員の委嘱又は任命	H27. 12. 16
飯塚市教育職員の給与等に関する条例の一部を改正する条例	H28. 1. 18
飯塚市図書館運営協議会委員の任命	H28. 1. 18
平成 28 年度教育費に係る当初予算要求	H28. 2. 9
飯塚市児童・生徒就学援助規則の一部を改正する規則	H28. 2. 9
飯塚市立小学校設置条例及び飯塚市立中学校設置条例の一部を改正する条例	H28. 2. 9
変更契約の締結((仮称)飯塚市立幸袋小中学校建設(1 工区)工事)	H28. 2. 9
変更契約の締結((仮称)飯塚市立幸袋小中学校建設(電気設備・その 1)工事)	H28. 2. 9
変更契約の締結((仮称)飯塚市立幸袋小中学校建設(給排水衛生設備・その 1)工事)	H28. 2. 9
変更契約の締結((仮称)飯塚市立幸袋小中学校建設(空調設備)工事)	H28. 2. 9
平成 28 年度飯塚市教育施策要綱	H28. 3. 24
臨時代理の承認(平成 27 年度教育費に係る補正予算要求)	H28. 3. 24

飯塚市学校運営協議会委員の任命	H28. 3. 24
平成 28 年度教職員の人事異動等	H28. 3. 25

(2) 教育委員会会議報告案件

件 名	提出日
平成 27 年度第 2 回飯塚市議会定例会の結果報告について	H27. 4. 16
公立学校施設整備費補助金等に係る財産処分の承認を受けて積み立てた積立金に関する取扱要領の制定について	H27. 4. 16
平成 27 年度学校開放日、運動会・体育会及び修学旅行の日程等について	H27. 4. 16
飯塚市立小学校総合的な学習の時間体験活動費補助金交付要綱の一部改正(補助執行事務)について	H27. 4. 16
認定こども園に係る関係例規の整備について	H27. 4. 16
飯塚市文化振興審議会規則の一部改正(補助執行事務)について	H27. 4. 16
平成 27 年度中学生海外研修事業について	H27. 5. 19
公用車における交通事故について	H27. 5. 19
平成 27 年度飯塚市奨学資金貸付審議会に係る諮問及び答申(補助執行事務)について	H27. 6. 10
サニーバール市との友好交流について	H27. 6. 10
飯塚市立鎮西中学校区小中一貫校建設に係る実施設計業務の完了について	H27. 6. 10
第 34 回飯塚新人音楽コンクールについて	H27. 6. 10
平成 27 年第 4 回飯塚市議会定例会の結果報告について	H27. 7. 17
大規模改造工事に係る契約の締結について	H27. 7. 17
平成 27 年度学校開放日の結果報告について	H27. 7. 17
第 36 回飯塚市少年の船事業について	H27. 7. 17
第 36 回飯塚市少年の船事業本研修の実施報告について	H27. 8. 24
大規模改造工事に係る変更契約の締結について	H27. 9. 11
平成 27 年度中学生海外研修事業の実施報告について	H27. 9. 11
山王山古墳の県史跡指定について	H27. 9. 11
平成 27 年第 6 回飯塚市議会定例会の結果報告について	H27. 10. 19
小中一貫校建設工事の進捗状況について	H27. 10. 19
鎮西中学校区小中一貫教育校開校に伴う小学校名、中学校名及び愛称に関する提案書について	H27. 10. 19
サイエンスモール in 飯塚 2015 の実施報告について	H27. 10. 19
小中一貫校建設工事の進捗状況について	H27. 11. 13
(仮称)飯塚市立穂波東小中学校建設(3 校区)工事における東側庇崩落事故について	H27. 11. 13
平成 27 年度学校開放日の結果報告について	H27. 12. 16
小中一貫校建設工事の進捗状況について	H27. 12. 16
平成 27 年第 7 回飯塚市議会定例会の結果報告について	H28. 1. 18
飯塚市個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例施行規則の制定について	H28. 1. 18
小中一貫校建設工事の進捗状況について	H28. 1. 18

平成 27 年度飯塚市成人式の結果報告について	H28. 1. 18
飯塚市地域公共交通協議会からの実施依頼について	H28. 2. 9
学校給食調理等業務の受託候補者特定について	H28. 2. 9
公用車における交通事故について	H28. 3. 24
心身障がい児(生)の就学等について(心身障がい児(生)就学指導委員会答申の報告)	H28. 3. 24
幸袋中学校区及び穂波東中学校区小中一貫校の学校給食調理法について	H28. 3. 24
飯塚市地区公民館施設整備実施計画(進捗状況)について	H28. 3. 24
市史編さんについて	H28. 3. 24
指定管理施設の評価について	H28. 3. 24